

# STARBT ALGATI!

11st shintoku kuso no mori film festival

【お問い合わせ】SHINTOKU 空想の森映画祭事務局 TEL・FAX 0156・64・3923

SHINTOKU

ようこそ、希望の森へ。

第11回

# 空想の森映画祭



すべては夢見ることから始まった……

会場

新得駅より車で約15分

新得町・新内ホール

会場直通:0156-64-3161(会期中のみ)

<http://kuusounomori.com/>

会期 2006

9/15-18

fri

mon



チケットは、主要プレイガイド等で取り扱いしています。  
映画1回券前売1,000円(当日1,500円)  
映画通し券前売3,000円(当日4,000円)  
※ライブは別料金となります。

[主催] SHINTOKU 空想の森映画祭実行委員会・北海道新聞社







Free 入場無料

<http://kuusounomori.com/>・・・ウェブサイトですらに詳しい情報がご覧になれます。

■通し券で映画と講演の全てにご入場いただけますが、あがた森魚・ライブは別料金です。■1回券又は通し券の半券を提示すればライブは前売り料金でご入場いただけます。■<Free>の表示のあるプログラムは入場無料です。

ゴミの減量にご協力ください。

●マイ・カップ、マイ箸をご持参頂くなど、ゴミの減量にご協力ください。

9/15 Fri

●19:30~  
オープニング・パーティー  
■パーティー参加費■  
¥1,000-  
<ワインとチーズと語りど>

●20:00~  
<ラッシュ>映画「空想の森」Free  
by 田代陽子

映画「空想の森」  
■2007年3月完成予定  
■カラー・150分(予定) / ビデオ  
監督 田代陽子  
撮影 / 田代陽子・一坪悠介  
録音 / 岸本祐典  
整音 / 久保田幸雄  
制作 / 藤本幸夫  
<ラッシュ上映>  
1回目 / 9月15日・20:00~  
2回目 / 9月16日・21:00~

昨年2005年2月から2006年の2月まで1年間ほど撮影をして、この6月くらいからようやく編集にはいりました。  
新内(北海道新得町)で野菜や蕎麦をつくっている農家の宮下善夫さん、新得共働学舎(北海道新得町)で野菜をつくっている山田聡美さんの仕事を中心に約94時間のテープをまわしました。日常のなんてことないシーンがなんでもいんだろと感じたり、自分の体を使って働く姿はかっこよくすがすがしい。この広い世界で出会えた嬉しさを感じながら、私は慣れない上に調子の悪い機械に振り回されながら編集している日々です。今回はいくつかのまとめたシーンをお見せします。

監督 田代陽子

日本で撮影されたインド映画上映  
+  
ティーチイン

製作者●羽根三千代さん (from 愛知)

「Love in Japan」

(実はジャパンプレミアム上映) 2時間 20分  
VCD 2枚 字幕なし / 監督 アクラム・シェーク (愛知県在住)。

「刈谷 オン・ザ・ムーブ」

(愛知万博一画一市町村フレンドシップ記録映画) / 監督 アクラム・シェーク (愛知県在住)。23分 DVD

●インド映画秘蔵映像特集  
・日本で撮影されたインド映画について、資料映像を用いて、北のマサラ代表みずさわ氏によるトークを行う。

9/16 Sat WORLD MUSIC NOW

●10:00~11:45  
「ベルリン・フィルと子どもたち」  
2004年ドイツ/カラー / 上映時間:1時間45分

動として子供たちがバレエ曲を踊る「ダンスプロジェクト」を始動させる。出身国や文化の異なる250名の子供たちが6週間に及ぶ猛練習を経て、ベルリン・アリーナの大舞台上に挑んだ!それまでクラシックに全く縁がなく練習にも身が入らなかった子どもたちが、振付師ロイストン・マルドゥームの熱い指導のもと、20世紀を代表するバレエ音楽《春の祭典》の強烈なリズムと一体になり、舞台の上で今まで探せなかった「自分」を見つけて行く!  
2004年2月ベルリン映画祭のワールドプレミアで、観客を熱狂と感動の渦に巻き込んだドキュメンタリー「ベルリン・フィルと子どもたち」が遂に日本上陸!

\*子供たちに、もっとクラシックの美しさを感じてもらいたい!それはサー・サイモン・ラトルの呼び掛けから始まった。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の指揮者として芸術監督に就任したラトルは新たな活動として子供たちがバレエ曲を踊る「ダンスプロジェクト」を始動させる。出身国や文化の異なる250名の子供たちが6週間に及ぶ猛練習を経て、ベルリン・アリーナの大舞台上に挑んだ!それまでクラシックに全く縁がなく練習にも身が入らなかった子どもたちが、振付師ロイストン・マルドゥームの熱い指導のもと、20世紀を代表するバレエ音楽《春の祭典》の強烈なリズムと一体になり、舞台の上で今まで探せなかった「自分」を見つけて行く!  
2004年2月ベルリン映画祭のワールドプレミアで、観客を熱狂と感動の渦に巻き込んだドキュメンタリー「ベルリン・フィルと子どもたち」が遂に日本上陸!

●13:00~14:45  
「モロ・ノ・ブラジル」  
2002年/ドイツ・フィンランド・ブラジル/105分  
ポルトガル語・英語 / 35mm/カラー

このサントラはブラジル音楽のバイブルだ!ミカ・カウリスマキ監督が出会った「ブラジルで生きる人々」の情熱と音楽の旗。ブラジル音楽のルーツと多様性を象徴するオリジナル・サウンドトラック (ライナーノーツ 中原仁)  
監督のミカが辿ったその旅程はなんと4000キロ。ベルナンブコ、ハイア、リオ・デ・ジャネイロといった3つの州を経由。サンバやボサノヴァにとどまらず、ポップ、ファンク、パンク、ラップ、宗教音楽といった様々な音楽の形態、そして地方色豊かなミュージシャン、歌手、ダンサー達との素晴らしい出会いと別れ…。音楽に生きる人々の人間味溢れるインタビューと大迫力のライブで綴る1時間45分の旅。

山形国際ドキュメンタリー映画祭2003特別招待作品  
2002年ベルリン国際映画祭パノラマ部門正式出品  
2002年ブラジル映画祭正式出品  
2002年サンフランシスコ国際映画祭正式出品  
2002年カンヌ国際映画祭正式出品

●15:00~16:54  
「リンダ リンダ リンダ」  
2005/日本/114分/カラー/DTS

文化祭前日に、突如バンドを組んだ女子高生たち。コピーするのはブルー・ハーツ。しかもボーカルは韓国からの留学生!?本書まであと3日。4人の寄り道だらけの猛練習が始まった!  
文化祭の浮かれた熱気の中、初期衝動を爆発させる女子高生たち~笑って、泣いて、キュンとくる21世紀型青春バンド・ムービーの誕生!

●キャスト:ベドナ/前田亜季/香椎由宇/関根史織(BaseBall Bear)/三村泰代/湯川麗音/山崎優子 (me-ism)/甲本雅裕/松山ケンイチ/小林且弥/小出恵介/三浦誠己/リイ/藤井がほり/近藤公園/ヒエール/瀧山本浩司/山本朝史  
●監督:山下敏弘 ●脚本:向井藤介/宮下和雅子/山下敏弘  
●プロデューサー:相澤洋之/定井勇二  
●音楽プロデューサー:北原京子 ●撮影:池内義浩 ●照明:大友直夫 ●録音:都弘道 ●美術:松尾文子 ●編集:宮島竜也 ●バンドプロデューサー:白井良明  
●主題歌:「終わらない歌」(ザ・ブルー・ハーツ)  
●音楽:James Iha ●サウンド監:ユニバーサル ミュージック  
●特写:東野翠れん  
第1回日本映画エンジェル大賞受賞作品  
製作:「リンダリンダ」パートナーズ

●18:30~20:30  
《ライブ》あがた森魚  
■前売 / 2,000円 ■当日 / 2,500円



1948年 北海道留萌市に生まれ  
1970年 自主製作 LP「善音盤」(芽摘樓堂)を鈴木慶一、細野晴臣らと録音  
1971年 第2回全日本フォーク・ジャンボリーにて「赤色エレジー」を歌う翌年「赤色エレジー」でメジャーデビュー  
1987年 林海象監督デビュー作・映画「夢見るように眠りたい」をプロデュース  
1994年 監督第2作 映画「オートバイ少女」(方孔シネマ)劇場公開  
1995年 あがた森魚がディレクターとなり「函館山ロープウェイ映画祭」スタート、99年より「函館港イルミネーション映画祭」と名称を変更  
1999年 映画「港のロキシー」2年がかりで完成、劇場公開  
2001年 あがた森魚初のベスト盤「20世紀涙漬記」をキティよりリリース

あがたさんは第1回目からずっと毎回欠かさず来てくれています。音動賞です。毎回来て下さるだけでなく、いつも僕たちを励まし、時には尻を叩いて、この映画祭と一緒に育てて来て下さいました。いわばスタッフの一員と言うとちょっと失礼なのですが、ゲストと呼ぶのはあまりによそよそしい...今ではあがたさん抜きに映画祭は語れない。ありがとう、あがた森魚さん!これからもずっとずっと来て下さい。

●21:00~21:45<ラッシュ>映画「空想の森」by 田代陽子 Free

●22:00~レイトショー<北のマサラナイト in 新得映画祭> Free





いまこそ  
LOVE & PEACE

今年の空想の森映画祭の柱は2本、土曜日はWORLD MUSIC NOWと題して音楽をテーマにした映画を3本、音楽が人生を変え、ということを実感する一日です。日曜日は WORLD PEACE NOWと題して戦争の今を見つめます。日本にも韓国にも米軍の基地があります。平和憲法を掲げる日本の米軍基地から戦闘機が飛び立って行きます。戦後61年目、このことをどう受け止めますか？



# 9/17 Sun WORLD PEACE NOW

●10:00～映画解説／藤本幸久

●10:10～11:16 「戦ふ兵隊」<亀井文夫監督作品>

「戦ふ兵隊」・1939年・東京文化映画部(上映禁止)完成時80分 / 現存短縮版65分

■撮影 / 三木茂・瀬川順一 ■録音 / 藤井慎一 ■音楽 / 古関裕而 ■製作 / 松崎吉次

亀井自身は「反戦映画ではない」と繰り返しているにもかかわらず、多くの文献やメディアで「反戦映画」の代表として取り上げられる不思議な亀井の代表作。撮影の三木茂、撮影助手の瀬川順一、録音の藤井慎一とともに亀井は、漢口攻陥作戦に参加する部隊に従軍して、見たものをありのままに捉えた。軍部が期待した戦意昂揚映画ではなかったため、上映許可となりお蔵入り。フィルムは行方不明で、承らなくなった幻の映画だった。1976年に『ドキュメント昭和』(朝日放送)を制作中の日本映画新社スタッフが偶然ある映画会社のダビングステージのスクリーン裏から発見。一躍「幻の反戦映画発見」と時の話題になった。ナレーションを高く、映像、現場音、音楽、字幕だけで構成、亀井の最高傑作と言われる。

●11:30～11:59 「基地の子たち」<亀井文夫監督作品>

「基地の子たち」1953年・モノクロ16mm・29分 東京キノプロダクション ■製作 / 吉藤聖吾・宇部敬 ■撮影 / 井上虎・牛山邦一 ■実地 / 瀬川順一・坂爪栄雄 ■録音 / 片山幹男 ■音楽 / 原太郎 ■編集 / 亀井文夫・田中徹・富沢健雄・神保善枝・山崎監教 「日本人立入禁止」の軍事基地はますます増え七百倍以上、その面積は四国全体に匹敵し、日本の児童を包囲していく。北の基地・千歳、山村の基地・山形県戸沢村、都市の基地・横浜須賀と立川、石川県・内灘とそれぞれの基地の現況を子どもの視点から描く。劇映画からドキュメンタリーに戻って初めての作品で、多くのシーンが劇映画仕立てとなっている。B班カメラを担当した菊地(山形)周が亀井と組んだ初作品。

●12:15～13:10 「流血の記録・砂川」<亀井文夫監督作品>

「流血の記録・砂川」1956年・モノクロ35mm・55分 日本ドキュメントフィルム社 ■製作 / 大野忠 ■撮影 / 武井大・植松永吉・城戸敏夫・勸使河原宏 ■録音 / 奥山重之助・大橋鉄矢・大野松雄 ■音楽 / 長沢勝博 1955年9月開戦の記録「砂川の人々」(1955年)、11月開戦の記録「砂川の人々・妻死なず」(1955年)に続く砂川開戦映画の第三作。1956年(昭和31年)10月12日は53名の測量隊が現れ、1300名の武装警官が殺戮、労働組合員、全学連がスクラムを組み警官隊を阻止、双方278名の負傷者が出た。13日は5000人の労働組合員、全学連が動員され開戦は最高潮、警官隊はピケ隊に騒いばかり、重傷傷者はピケ隊員844名、警官隊90名に及んだ。世論は警官隊の暴行と政府の無政策に憤慨、政府は14日夜、突然ラジオで測量中止を発表、地元は歓喜と興奮に沸きかえり勝利の爆竹が繰り返された。

●13:30～15:41 「Marines Go Home」～辺野古・梅香里・矢白川」

(カラー・DV・132分)企画:北海道アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会(北海道AALA) ■製作:森の映画社 ■監督:藤本幸久 ■撮影:小寺卓夫 / 藤本幸久 / 宮崎利寿 / 西丸栄次 ■録音:久保田幸雄 ■編集:藤本幸久 ■ナレーション:影山あさ子 ■副録音:金城繁輝 ■翻訳:金城進 ■通訳:金後河 ■英語版字幕:加藤幹子 今年戦後61年目、沖縄県辺野古～韓国梅香里～北海道矢白川、3ヶ所を結んで見えてくる戦争の「今」、マスコミでは決して伝えられることなかった「戦争の今」を知ること、いま世界中で起きている戦争とも、過去の戦争とも無関係ではないということを知りたす。

ト ユサ

●16:00～18:00 「都 裕史さん講演」～韓国・平沢(ジョンテク)からの報告とビデオ～

都裕史(Do Yoosa)ト・ユサ 1957年長崎県佐世保市生まれの在日朝鮮人25世(父1世、母2世)幼稚園から大学まで日本の教育を受ける。大学生の頃に民族運動を始める。卒業後反戦反核運動にも関わる。1996年8月韓国と沖縄との米軍基地反対運動の連帯作りに参加、その後沖縄の人々と共に1998年「米軍基地反対運動を通して沖縄と韓国民衆と連帯する会」を立ち上げる。2000年5月、初めて祖国大韓民国に入国を果たし、その後は韓国や沖縄を往来しながら米軍基地反対運動の連帯に向けて人々の交流作りを進める。一方で韓国での米軍問題を翻訳しながらインターネットを通して発信することで情報の共有に努める。2002年7月に韓国政府によってパスポートの更新を拒否され、再び祖国への往来権を剥奪されるが、韓国での裁判に勝利して2004年1月にパスポートを奪還する。

●19:00～21:28 「送還日記」<キム・ドンウォン監督作品>

韓国/2003/日本語字幕/35mm/148分/ビスタ/モノラル 原題:送還 宣伝・配給:シグロ、シネカノン

●韓国ドキュメンタリー映画の代表作、「送還日記」

現代韓国の記録映画を代表する「ブルン映像」のキム・ドンウォン監督は一般的にドキュ1世代と称され、韓国現代史の性格に映画を通して強力な問題を提起しながら良心の声を明確に発する作品群を作り上げて来た。キム・ドンウォン監督以後韓国のドキュメンタリー作家たちは社会的、政治的な不幸が如何にして個人の苦痛へと転化してきたのかという問題に真摯に取り組みながら加工されない真の感動の瞬間を捕捉して来た。

●22:00～レイトショー『みんな、空でつながっている～イラク拘束事件・今井紀明君と出会って～』Free

2004年春、イラク拘束事件でマスコミで注目した18歳の少年、今井紀明君。帰国後の彼を持っていたのは、「自己責任論」という日本中からのバッシングだった…。その時、彼は何を思ったのだろうか?ひとりの大学生が、同じ若者の視点で彼を見つめた半年間の記録。(約14分) + 作者の権爪明日香さんとトークセッション。



●亀井文夫・プロフィール

1908年、福島県生まれ。レニングラード映画専門学校。1933年PCL(のちの東宝)入社。「上海」怒濤を捲いて等の記録映画を発表。会社・軍部と対立しながらも、その作品量にみられるように、亀井文夫は戦前戦後の日本の記録映画の先達であり、進歩的、社会的立場を一貫した作家である。

劇映画でも「戦争と平和」「女の一生」等を撮り、その傑出した演出力と独自の作風で、日本映画史上不祥の位置を占めた作家である。1987年没。

# 9/18 Mon

●10:00～14:30「ルート181」

2003年(ベルギー・フランス・イギリス・ドイツ)

270分(4時間30分)ヘブライ語・アラビア語

監督:ミシェル・クレイフィ、エイアル・シヴァン

字幕:日本語・英語両字幕 日本語字幕:西村美須寿

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2005 最優秀賞受賞  
ふたりの監督は、国連決議181号が定めた境界線を南から北にたどる旅に出る。そして、途中で出会った人々に何の予備知識もなしにマイクを向ける。

●15:00～16:00 Free

「ルート181～トークセッション」

パレスチナ連帯・札幌の代表松元保昭氏を迎えて

上映終了後、パレスチナ連帯・札幌から代表の松元保昭さんをお迎えして、トークセッションを行います。映画に引き続き、多数のご参加をお待ちします。

「パレスチナ連帯・札幌」は、9・11後のジェンン虐殺に衝撃を受け、河津一写真展を開催した動きの中から、イラク戦開始直前にパレスチナ国民評議会のライラ・ハリッドが来道しアイヌ民族と交流したことをきっかけに生まれました。以来、パレスチナ問題の啓発を主に「響きあう パレスチナとアイヌ」など北海道独自のパレスチナ連帯の途を探り続けています。

●16:30～さよならパーティー



Thank you for  
All My Relations……  
ありがとう!



